

DI 調査結果（令和5年10月-12月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は緩やかに改善しているものの、海外経済の動向に注意する必要があり  
来期については厳しい見通しとなっている』

【調査概要】

1. 今期(令和5年10月-12月期)の業況調査DI12項目では、「受注単価販売価格」など4項目がプラス、「売上高」など8項目がマイナスとなり、7項目が悪化している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
  - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲3.4(前回▲5.8)と2期連続で緩やかに改善しているものの、依然としてマイナスで推移している。また高騰が続く「原材料価格」が▲35.8(前回▲42.8)と落ち着きを見せつつあるが引き続き上昇が続いている。「収益状況」は▲7.7(前回▲15.3)と改善し、価格転嫁が徐々に進んできている状況が窺える。
  - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲4.6(前回▲3.1)と引き続きマイナスとなり、下振れ傾向が続いている。「受注残」9.9(前回6.3)、「生産設備」2.7(前回3.6)と、横ばいで推移している。
3. 来期については、「来期受注」▲19.6(前回▲7.7)、「来期採算」▲16.8(前回▲8.4)「来期資金繰」▲10.7(前回▲6.2)と、3項目ともに減少・悪化となっており、先行きについては厳しい見通しとなっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、10期ぶりに「受注不安定」が34.1(前回29.9)とトップになり、受注の不安感が増してきている。また、前回までトップだった「人材不足」も33.3(前回35.6)と依然として高く、自動化や省人化の取組みが急がれる。
5. 景況感は2期連続で緩やかに改善しているものの、操業率の低下や原材料、エネルギー関連価格の高騰が続いており、懸念材料が多い状態にある。加えて、長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向に注意する必要があり、先行きが厳しい見通しとなっている。

